



# おやまだ

第3号  
58. 3. 31



しし神楽と奉納太鼓



## 新しい

## 地域への取り組み

おやまだは、四日市市の田舎である。都市化はあまり進んでいない。山林や田畑は豊かで、坂道は曲りくねっている。交通騒音は少なく静かである。

かつてのわが国の高度発展の論議からすると、このようなおやまだは、ひどく遅れており、現代人のとも住めたところではないことになる。

ところが、急激な産業化・都市化のもたらした環境公害・地域住民の犠牲などのひずみが目立つにつれて、その間、二度にわたるオイルショックも災いして、大規模かつ工業中心の都市開発のメリットは全国的に急速に失なわれてしまった。いや、それはかりではない。産業社会が一段と発展した今日、むしろ、高度成長の夢に酔つ以前の、地域社会の生活ぶりが改めて注目されているのであり、そしてそこに見られる長い歴史の流れの基礎の上に立つ、新しい地域づくりの必要が主唱されるようになったのである。

確かに、この広報の中に述べられているように、おやまだの名町には、往古からの一貫して、したたかな年中行事があるのである。町の人々は一体となつて、そこに参加して、お互いに幸せを慶び、また、不幸に共感し、悲しみを和らげるよう努めてきたのである。そここにふれられている自然と人間、町と人、家と家、親と子、などのふれあいは本物であり、年季がかかっているのである。

今日、人心の荒廃、家庭の崩壊、各種暴力事件などが、連日報じられているが、これらの問題解決にとつてもっとも大切なことは、目新しい施設、人を驚ろかす新しい地域づくりではない。

これまでに、おやまだの名町づくりで続けられてきた温かい人間同士の問柄を、来るべき新時代のために新しく組み立てていくのである。

(中村)

あの真珠湾攻撃の翌々年つまり昭和十八年のその秋、国民小学校二年生の私は戦火を避け父祖の地たる小山田村に帰って来た。成長して後もしばしば名古屋から帰ってはいしたが、終戦を挟み小学校を卒業まで過したこの数年間が、小山田で暮らした一番長い期間になる。戦中戦争直後のこの時期は考えれば不幸な時代ではあるが、そんな中で、わが小山田は、まことにのどかで平和な小天地であった。

### 終戦前後の小山田の思い出

村瀬 千香子(旧姓、須藤・名古屋在住)

その時分は着るもの一つにしても今とは大分様子が違う。戦時中、女たちは子供までもんぺをはかせられたのは別としても、たとえは、冬になると男の子も女の子も服の上から綿入れのどんちや羽織を羽織って、そのまま学校へも来ていた。どんちというのは袖のない羽織と思えばよい。コートを着ているようなのは、よほどのハイカラだった。

やつがおおかたそんなものであった。農村であるからほとんどが農家である。農家は忙しい。猫の手もと言うが、子供の手でも借りたい時だつてある。遊ぶ一方でけっこういろいろと子供たちも手伝っていた。

われようものなら、小山、西山、小林野、果ては堂ヶ山や六名までと遠征に行くのである。それは私にとって未知の世界がひらけるような喜びであった。さつま芋畑や、つる草はびこる野原の中の赤土の道を行くと、やがて道は二筋に分かれる。右に行くこともあれば左に行くこともあった。野を越え畑の作物を眺め松林を幾つも通り越し坂を登ったり下ったり、くたびれ果てた頃やつと友達の住む部落にたどり着く。山ひだに家々が寄り添い合い、そこには陽だまりのぬくもりがあるような気がした。

呼びに来るのは、「千香ちゃん」というかばそい返事が聞える。身の置き所がないというのはこのことである。いっそ逃げ出したいが逃げるわけにもいかない。やや沈黙があつて、ぼそぼそと声が低くなる。「そんなら行って来い。よう勉強教えてもらうんやで。」かくて私は、わが家の土蔵の前のコンクリートにござを敷き家から小さな黒板を持ち出して、臨時の須藤塾開講に精出すことになる。小学生のことで無論いい加減なものである。私自身、家で勉強などついぞしたことがなかった。

行きついた先で暑い頃は西瓜などご馳走になるようなこともある。食べながら、掃りの道のりを思うと溜息が出そうになる。思えば子供心に気の遠くなるような道のりを多くの子供達が小山田小学校目指して、毎日通つたものである。雨の日も風の日も、六つ七つの子までが二、三人ずつ、数人ずつ肩寄せ合うように、とほとほと山田との間を往復していた。雪の朝、頭から雪をかぶつた西山の男の子が二人もつれ合うように教室に飛び込んで来るようなこともあった。堂ヶ山へ通じる分れ道で、風に傘を取られかけ、べそをかいていた小さな女の子がいた。遠い昔の思い出である。



### 昔を今に

#### なすよしもがな

西山町 鎌井

わたくしたちが子どものときは、戦後間もない頃でした。野や山に緑はあふれ、小鳥は樹々にさえずり、海岸には白い砂浜と松の木がたくさんあり、小川にはめだかや小鮒が泳ぎまわっていました。

子どもたちは、学校から帰ると近所のもので遊んでいっしょに遊びました。あちこち継ぎの当った服を着て、一年から六年生まで男の子も女の子も。そう、宿題もなかったのです。

でもそうですが、きょうだい仲はとつても良いのです。家の仕事もよく手伝いました。私は長女なので用事を特に多く言いつけられました。こわい母親でしたが、その母も近年はしなびて大分小さくなりました。でも今でも子どもも扱いです。実家に行くときも、いつまでも大切にしたいと思っています。

最近の核家族化で、子に捨てられた？ 夫婦二人だけの世帯が、この地区でも増えてきています。

家の崩壊で現代の姥捨山が点在するきざしでしょうか。消費生活に追われて、主婦もパートに出るご時世は、帰宅児童をテレビが面倒をみています。

昔は子どもにも知恵をつけてくれるのは家庭の大人、学校の先生、子どもの集団、子ども自身が発想でした。二・三歳の頃からテレビにかじりついている今の子どもは、私たちの幼児期とはかけはなれた知識を持っています。学校の先生の知らないことを知っている子どももいるのでしょうか。

教育の困難も肯定できます。私たちは物質面での見かけの豊かさを得た(与えられた?)代りに、かけがえのない何か大切な物を失ないつつあるのではないのでしょうか。

でも、今

でも、今

# 各町の行事あれこれ

その1

## 六名町における年中行事

### 六名町自治会

★自警団 十二月下旬、地区自警団による防犯、火災の夜警を実施する。

★宮番 十二月三十一日宮番（一年間の任期。神社関係の当番で順番制。町内全戸の戸主が当たる）は神社、水神様及び常夜灯（御大典記念として大正四年十一月町内有力者の寄附によって建立、伊勢神宮の遙拝所として神宮方向に建てられている）の三カ所のお鏡作り、境内の清掃、門松等を建てる。そして正月のかがり火用の材料を準備、宮番は午前三時頃より宮境内でかがり火を焚いて初詣者を迎える。参拝者は三時半頃より六時半までには町内全員が参拝を終了する。宮番は町代表として参拝者より逐一年頭の挨拶を受け神酒を奉仕する。

★出初式 一月三日町内自警団による出初放水消防訓練及び消火栓三ヶ所に設置してあるホース格納箱の点検実施をする。

★昆比羅祭と初参会 一月四日昆比羅祭及び町初参会を公会所において開催する。町内戸主が全員集まり、昭和五十年頃までは宮番の家が会合の場所であった。当時の模様は、初参会の二、三日前に町内全戸へ、もち米一戸当り一合を集めに歩き、当日町民が集まるまでに餅つき準備一切終わって待機する。餅つきは戸主全員でつき、お鏡にして御酒と共に供える。解散時鏡餅を各戸平等に分配する。初参会は前年度の歳入歳出を報告し承認を受ける。そして本年度町内における諸行事計画、要望事項、健康、火災、交通安全に関する心構え等の話し合い等をする。

★伊勢講 同日午後より伊勢講会合。西講、東講両講があり講元（当番）は一年交代で順番制となっている。親睦を目的とした旅行の世話人である。旅行は一年目は伊勢参宮で日帰り。翌年は会食の席において行先を決定する（一泊旅行）。伊勢参宮以外の旅行年は、講員より二名の伊勢参宮の代表者を抽選で決め、旅費を支給し神符を講員戸数だけ受け各戸に分配する。

★御嶽祭 三月九日御嶽祭、六名町神社は加富神社へ合祀されたので年頭の意味で獅子（大明神）が加富神社へ参拝、獅子舞神楽奉納の習しとなり現在に至っている。

★涅槃会・比沙門祭 毎年四月の

★修正会 梵鐘合図で七時より光輪寺修正会に町内戸主全員参詣。読経後住職の年頭の辞があり全員が本年も町内の安泰を御佛前に念しつつ下向する。

★天王祭 七月十四日の天王祭当番の組が轎を二ヶ所建て宮境内の清掃を実施、午後五時より町民参拝して神酒を頂く。



六名町の遠望

★道普請 八月の最終日曜日には自治会において道普請を実施する。その夜組長宅において盛大な会食を行ない毎に自治会に対する要望・意見発表・連絡事項等話し合いをする。

★秋祭 十月十日、秋の大祭当番にあたっては組が職建て、宮清掃、午後より町内獅子舞神楽を各戸へ奉納する。

★報恩講 十二月は各組各戸ごとに報恩講を勤め一年の行事を終了する。

★お盆 八月七日（七日盆）午前七時ホラ貝の合図で戸主全員墓地清掃、終了後連絡事項等伝達する。八月十三日午後六時、住職同行一同により無縁仏の供養念佛を墓地にて勤める。また、十三日、十四日両日夜は光輪寺盆会に同行多数参詣する。八月十五日は青年団、自治会、子供会、婦人会、自警団、老人会共催の盆踊りを行う。

★天王祭 七月十四日の天王祭当番の組が轎を二ヶ所建て宮境内の清掃を実施、午後五時より町民参拝して神酒を頂く。

### 六名町の昔話を紹介します。

その昔、六名郷の西の宮（牟津名神社）附近を宮の下と呼んでおりましたが、この場所は周囲に樹木が繁茂し、高温多湿なので害虫や毒蛇の生息には適地でありました。

## 宮の下のあぶ(蛇)

江戸時代の中ごろ（年代不詳）に天領検見の役人（代官）が、当地に來られて水稲の検見（評価）が行われました。

その際、宮の下附近から沢山のあぶが集まってきて、その役人達の身辺をとびまわり、今にも吸いつかんばかりの攻勢を受け、一方水田の畦畔には、まむし（蝮）が多く横行し、危険の上もない有様なので、さしもの勇敢な役人達も驚き、あわてて逃げ帰りました。城中（江戸城内）ではこの有様をだまっておりましたが、翌年もその翌年もこの



現在の宮の下附近

状態がくりかえされましたので、ついに城中にてこのまようを老中に申し上げたところ、居並ぶ諸大名も驚かれたそうです。

その後、幾年かすぎましたから、老中より宮の下のあぶは如何なつたかのご下聞に、昔も今も変わりませんと言上申し上げたら、「やっぱり宮の下のあぶは変わらないか」と全国的に有名になったと、古老より言いつたえを聞いております。

（田中弘治郎）

# 各町の行事あれこれ

その2

## 小山町の伝統行事

### 「どんど祭り」

小山町自治会

小山町にはお正月の伝統行事として「どんど祭り」があります。

このどんど祭りは、新しい年の始めにあたって、その年の無病息災、家内安全、五穀豊穡を祈願する祭りで、時代の流れによっていくぶん変わりましたが、昔から毎年一月七日に行われています。

町内から奉納された竹を主体に、門松、縄等を焼くどんど焼きと、その残り火で鏡餅を焼く餅焼きが主な行事です。

「どんど」で焼いた餅を食べると夏病みしないといわれ、燃え残りの竹や木を田んぼの苗代に立てて豊作を祈り、井戸端に立てると「ナメクジ」の防除になる等がいい伝えられています。

一月七日早朝から消防団や有志の人により、どんどが組まれ町の人々が多数見守る中、神主さんの祝詞奏上、玉串奉奠、おはらいが済むと火の付いた藁束に点火されます。

煙が空をおおうようになると、子ども達が天筆上げをします。



小山町のどんど祭り

習字の手が上達するように祈り「天筆さんあがれ、天まであがれ」と唱え、書初めの清書を長い竿で煙の中に落とすと上昇気流に乗って高く遠くに飛んでいきます。

入れ替り、立ち替わり餅焼きは昼頃まで続き、今年初の町民の社交場の一つとして、賑わうこのどんど祭り行事は今年も盛大に行われました。

きます。

「どんど」が燃え盛るようすは、美しくかつ壮大でありドーン、ドーン、ポンポン、パンパンと爆竹の音は勇ましく、まさに火と音の饗宴は誠に見事なものです。

長い竹竿の先に餅網をつけ、「どんど」の周囲に待機していた人々が網の上に餅を並べ、一せいに差し出し餅焼きが始まります。

「春は名のみの風の寒さよ谷のうぐいすうたはおもえど時にあらずと声もなく」私の好きな歌声が流れてくる。内山町の早春は報恩講と共にやって来る。正月休みが済むと報恩講の日取りや、故人の法事が話題になる。法事を同時にする習慣から、今年は誰々の何回忌である等々主婦族にとっては盆や正月と共に気ぜわしい季節である。

当日は住職と共に、近村の出来事や故人の話、昔話しに花が咲き、あだ名と共にとんでもない先祖がいたりする。赤犬を喰った人、俳句の好きな人、断固殺生を禁じた人等、若者の結婚で新しい親戚の方々もいられると「元を尋ねるとうちうちじやないか」とあらためて世間のせまさに驚いたり……。

内山は長寿の人達が多く、自他共に認めるおじいさんの私もまだまだ未老年の部であり、うれしい事である。先頃小山神明社が改築された時、旧社の屋根裏から出て来た奉納札に記されている内山氏子中伊藤某の事は知る人もなく、時の流れの早さに驚かされる。

くらしも豊かになって法事の仕出しや、お茶菓子眺めて、ええ世の中になったもんなやなあ……。報恩講しめくりの法座が済むと、内山町の早春に別れを告げる。風は冷たいけれどやわらかい日差しを浴びて田んぼや、茶畠に人々の姿が見られるようになった。

る。酪農の里内山はつい最近まで、れんげ田の花が春になるとみごとに咲いて、花の匂いにつつまれたものであるが、静かな山里も世間の風が当たるようになってれんげのジュータンも、真黄な菜畑もあまり見られなくなつた。

## れんげ、菜の花畑も今はなし

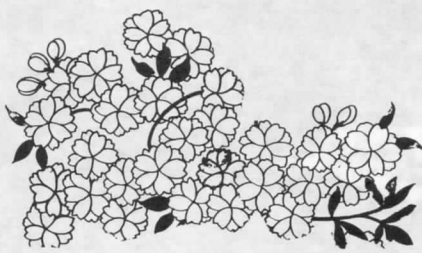
### 内山町の早春賦

昔一米もある「なます」の釣れた八幡さんの社あとの堤にも、藪椿の赤いつぼみが藤づるの間に見える。松たけの採れた山々の松がほとんど全滅して、枯れ枝を天につき出しているのは春が来るというのに哀れである。報恩講の法座も満座となり、一言一言じつと聞き入る人々に教師も一段と熱が入る。

山田の出村として生まれたので、山田の歴史が内山の歴史のようである。先日京都の帰りに亀山で乗り合わせた老女が、小山田の人ならこんな言葉知ってるか？と老女との会話。

「おやまやまだへ嫁入りしたら、芋も米じゃと思わんせ。芋も米じゃと思うては来たが、夜も昼とは知らなんだ」何言ってるの！今じゃ三食昼寝つきたよ。

(内山町 矢田 哲)



趣味の方もなかなか優秀で民謡あり、演歌歌手あり、その他盆栽や囲碁も盛んで、特に囲碁の大会は年に二〜三度行われて他所からの参加者もある。カラオケ大会は、正月前の一行事と

# 各町の行事あれこれ

その3

## 堂ヶ山町

### 町民ふれあいの行事

奥村 武雄

堂ヶ山町には、昔より今日も引き継がれているもの一つに伊勢参宮がある。

堂ヶ山町には、参宮講という三組の講中があり、世話人があ  
内山町では、盆栽愛好者が多く三十年程前から矢田喜一氏の指導により、盆栽愛好会として活動が続いておりま

つてその年の当番方が世話をし  
て地区民全般が同日に参宮する。  
何百年も先から続いているだ  
けに町民の心のふれ合いがある。  
昔は、春の桜の花が咲く頃に  
一晩泊りで行われ、これに参加  
する人達は七、八歳の頃の子ど

も親子連れが多かった。  
子どもたちは初参りといって、  
親に連れられて参宮するのが遠  
出の旅の最初であり、世間を見  
るのもまた初めてであった。  
親子のふれ合い、他人様との  
つどいがいまだに忘れられること  
出来ない懐かしい思い出として  
残っている。  
わたくしの初参りは今から七  
十年ぐらい前であった。今のよ  
うに乗り物がある訳ではなく、  
朝の三時頃より荷車に隣近所の  
子どもたちと一緒に乗り合わせ

それを引いて遠い坂道を十二軒  
程もある亀山町まで行くのであ  
る。それを汗を流して引つ張る  
のは父親たち。  
ようやく亀山町に着く。亀山  
町には国鉄の駅があり、生まれ  
て初めて汽車に乗るその嬉しさ  
は何ともいえず、これら楽しい  
思い出は一生忘れることが出来  
ません。  
初参りの子どもたちは、それ  
ぞれの家の母親か父親に連れら  
れ親子のふれ合いがあった。  
その当時の小づかい銭といえ  
ば、今では想像もつかない何銭  
単位である。伊勢地方の郷土特  
産みやげ物、竹細工の笛やこま  
を買ってもらった。



## 楽しむ内山町の

### 囲碁仲間

小山田地区の最北端、前と後を山に囲まれた静かな山村に立ち並ぶ五十余戸の民家。  
この内山町で盆栽とカラオケグルーブの盛んなのは周知の通り。それに加えて囲碁仲間の多いのもこれまた定評。  
わずかの余暇を見つけて、いや作り出しては仲間の家とか、公会所へ集まって和気あいあいの中で対局。  
パチン、パチンと音を響かせながら白と黒の石を並べるこのゲーム、一体何がそんなに楽しいのだろう……と思うのは甚ぞ知らぬ者の感じ方、時には熱戦

に時間の経つのも忘れ、食事もそのけ無我の境地に達するものもこの世界の常と



## 親睦と技術交換をめざす 盆栽愛好会

盆栽づくりは年齢に関係なく楽しめる健全娯楽であるとともに、健康づくりに役立つ趣味であります。  
現在、小山田盆栽愛好会（世話役 矢田徳男氏 会員二十六名）に属し、会員十二名で、月一回例会を開いて会員相互の親睦と技術交換をするともに、各地の盆栽展に出展しておりますが、活動としてはやや沈滞気味であるので、今後は活発に活動していきたいとのことであります。



内山町の盆栽クラブ会員

当時の宿はたいがい古市町の「両口屋」とか「やづ屋」とかいう宿で毎年なじみ客として泊っていたのである。  
親たちは夜の御馳走でお酒をくみ交わし、宿の女中さんのサービスで満足、その地方には伊勢音頭がよくはやり、手拍子で飲む楽しさは、年に一回の楽しみで待ち遠しかった。  
それ故に堂ヶ山町には、今でも会合には伊勢音頭がよく聞かれる。  
それが今日では乗物が発達して日帰りも出来るようになったが、取り止めることなく堂ヶ山町自治会の行事として引続き行われていることは、地域住民のふれ合いに一役買っていることはいうまでもない。

### 活動を通して

## 青年と地域住民の結びつきを!

物質文明といわれる現代において、青年は何を考へ、何をすればいいのかわからないのか。

欲しいものは、お金さえ出せば何でも買える。いらなくなったら捨てたい。そんな事が当たり前になった時代に、青年がしなければいけないのは何だろうか。

我々小山田連合青年会では七月に映画会を行いました。できるだけ多くの人に、見ていただくこと、地区団の協力も得て、一日ずつ各町の公会所を巡回させていただきました。来ていただいた方は知ってみたいと思いましたが、内容は「つつばり」、

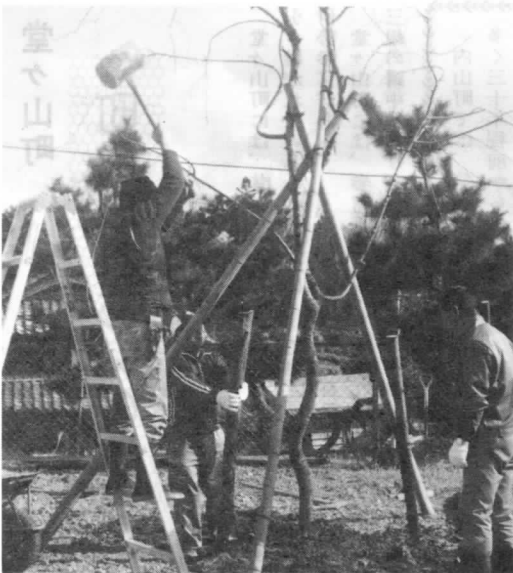
# 声

## 地域づくりとリーダーシップ

堂ヶ山町 奥村 治彦  
会社や学校では部長、課長とかキャプテン、委員長といったグループを指導し、監督する立場の人が決められています。そんな人を「リーダー」と呼びますが、その人達のすべてに「リーダーシップ」があるわけでは

ありません。決断力がない人、統率力に欠ける人、ワンマンな人、下の者の気持ちに無頓着な人等、リーダーにふさわしくないタイプは幾らでもあげることが出来ます。こんなリーダーに指導されるような場合は、部下の意気は上らず仕事もうまく進まない。逆にリーダーシップのある人の上にもつと、やる気が出て能率アップということになるのでは無いでしょうか。

このことは、地区社会づくりにも同じことと思います。幸いにして当小山田地区からも市会議員さんも選出され、また連合自治会長、各地区自治会長、民生委員、老人会、婦人会、交通安全協会、子ども育成会等各会長さんや、役員がみえます。この方々のリーダーの悪い悪いによって当地区の発展も分かれています。



植樹奉仕する自治会長とゲートボール会員たち

わたくしたちが住む「小山田」には立派なリーダーを選び、そして私たち一人ひとりが常に新しい知識、技術や教養を身につけ、社会性、市民意識をもった人間になるように活発な自主活動をしなくてはならないと思います。

(鹿間町 市川たか子)

### われらの施設は自分たちの手で!

連合青年会女子活動部では、日頃地区市民センターを諸活動の「場」として活動しているが、日夜多くの人々が利用している市民センター和室の障子紙張り替え奉仕を、去る年末の日曜日に自分たちの手で行った。真新しく張り替えられた和室は一段と明るくなり、冬の太陽をいっぱい受けながら利用者の

### 地域社会のふれあいに思う

地域社会のふれ合いというものはどこにでもあるが、人と人とのつながりを深め、その地域の人たちと共に楽しく働きながら生活して行きたい。わたくしも歳と共にバスを利用する機会が多くなりました。他人様との朝のひとときの出会い「お早ようございます」との挨拶に心がなごむものです。同じ道を通るバス、その附近の地域の人たちである他人様、わたくしはバスに乗った時いつも思う乗客たちのマナー。善意



青年たちによる障子張り替え奉仕

の席について一言。大勢の人が寄れば色々な人たちがいる事を、毎日同じ通勤バスに乗れば他人事ではありませぬ。その善意の席に知らぬ顔をして腰を掛けているのは、大抵若い年頃の元気な人です。自分は勤務先に行けば疲れるのだから、ひと時でも楽をしたと思う気持ちはわかります。だがやがてバスの中は「子どもさんを連れた母親さん、お医者さんに行かれる病人さんの為に席をゆずってあげて下さい」との車内放送。もし困った人が乗って来たらどけばいいではないか……、と

# こ・声

## 結婚式の

## 豪華さに思う

華やかさきわまりない昨今の結婚式。一生に一度のことだからお金を

かけることを苦にしないとはいえ、あまりにも派手すぎるのでは

はないでしょうか？ つつましい生活をおくっている私には、

気が遠くなるような思いで、よく人に「そろそろ結婚しないの？」と聞かれるものの、返す言葉はいつも「まだまだ

(結婚)資金がたまるから。——顔では笑っているけれども、

まったくのジョークといえるものでもなく、本人

は、正式な届けを出して結婚したことを祝福してく

る人達に報告するだけではないの、一応年頃の乙女？

といたしましてはウェディングドレスもあこが

れでありますし、今はドライにわりきっていても、

はずれ、やはり着てみたかった」と後悔する日

がこないとも限らず……ただ質素でいいんです。

派手さは望みません。自分の一番好きな人と一緒に

なれた感激で涙があふれるような、そんな式であれば……

いつまでも少女趣味

な「甘えちゃん」ですが、この甘い夢もとをただせば

なんたって「おぜせ……」頭の痛い問題なのです。

(六名町 森田 有子)

(堂ヶ山町 奥村 武雄)



青年女子活動部のメイク法実習

## 大きなビルよりも

## 歴史あるわが街を愛したい

自分の住んでいる町は、

今から十年余り前、東名阪

高速道路を建設中、縄文時

代の土器等が発見されたとい

うことを聞いて、当時小

学生だった私はその時、非

常に驚き、関心を持ち、ま

た「あその池は昔、お城

の堀やつたんや」「あのへんには、抜穴があったもんや」とか親から聞かされるたびに、すごいところだったんやなあと思えました。

現在は、大きな道も出来、車でどこかへ行くのには、だいぶ便利になったようですが、もし

自家用車がなければ、バスは通ってない、電車はもろろんない、

なんともしょうがない所ですが、かと言って、東京や名古屋、大

阪のようになってもいいですか、と言われるといやです……。

また、この地区に、団地のようなものが出来るような事

聞いたんですが、もし、そんなのが出来たら、たしかにこの地区

は発展するでしょうが、あまりうれしくないのです。

ただでさえ昔(小学校)にくらべると回りの景色が、変わっ

たなあと思っているのに、そんなものが出来たらたまったもん

じゃない。

小山田地区は、特に歴史のある町

なんだし、もっと一人ひとり自覚を

もって、今後の町づくりに努めてみては

いかげんか。

最後に、大切です。自然は、大きなビルが

建ち並ぶ小山田なんて、なんの魅力も

ないじゃないやありませんか。やはり、何が一番よく似合うか

と、水田、そして茶畑とちがいますか。

(堂ヶ山町 宮田 義美)

イギリスの天文学者ハーシェルは「友よ我々が死ぬ時には我々が生まれた時より、世の中を少しなりともよくしていこうじゃないか」という言葉を残しています。

私達も、次にくる人々のために少し

でも、住みよくなった地区を用意しておこうではありま

せんか。資源が枯渇し、自然が破壊され、対立

抗争のたえないボロボロになった世界を残してい

たくないのです。

私達に一番近い後世の人間とは、私

たちの子どもや孫たちです。

現在子どものいる人も、将来子ども

を持つ人も、自分たちな

り子どもたちに残す最大のプレ

ゼントは何かを考えてみま

しょう。例えば毎日生きいきと

生きる姿を子供たちに見せると

いうのも、子どもたちへのりっ

ばなプレゼントになるのではな

## 苦難を乗り越え

## 活気を後世に

きょうとする力を、そこうとするものはたくさんあります。そ

うした苦勞にいつしか負けて、人生に自分の持った力を十分

に生かすに終った人も多いこと

でしょう。

私たちの子どもも、いつしか

多くの障害に出会うかも知れ

せん。けれども

自分の親はそんな障害の中

でも毎日生きいきと生活してい

たという思い出は、将来の子

どもたちにもたくましく生きる

勇気と活力を与えずにはお

かないことではないか。

それが子どもたちへの何よりの生きた教育になるのでは

「青年講座」(明日の親のための学級)

(鹿間町 市川金男)



# 市長をかこむ地区懇談会

去る12月3日、地区市民センターにおいて、地区から各自治会長、各種団体代表、関係機関から30名、市側から市長、関係部課長以下13名が出席し、「小山田地区の道路について」をテーマとして懇談

会が開催されました。この席では、市長挨拶のあと4名の方から基調発言があり、そのあと懇談が行われました。その主な内容は次のとおりでした。

「小山田地区の道路の現状と将来構想」連合自治会長 矢田善衛

小山田地区の道路の将来構想を考えると、まず南北道路の早期完成をお願いしたい。これは小学校の西から湯の山街道の川島地区内までを結ぶものである。次に山田町内の道路が狭いので農協と北川橋の中間地点を起点として小学校通学路と連結する道路がほしい。また、中学校の通学路としては、鹿間、和無田の生徒が利用している山道を、まっすぐ中学校正門前まで抜いてほしい。

「通学路の現状と対策」小学校PTA会長 安田勉三  
山道が多く、暗くてさみしいので街路灯の設置をお願いしたい。また、PTAでは定期的に通学路の除草や軽い補修は行っているが、道路とその西側の民有地との境界がはっきりせず作業に支障をきたしているため、その対策を考えていただきたい。

境界問題は、はっきりさせていかなければならないと思っているが、手法としては、みなさんで杭を打つてもらおうと、でこぼこになってしまふので、道路台帳を関係者に出すので、それをもとに自治会長さんが中心になって、地主と話し合い仮杭を打ち、その後、市と地元で確認していききたい。



「交通安全対策と道路利用」交通安全協会小山田支部長 矢田勇

とにかく、どこが市道で、どこまでが私有地なのかははっきりしない所が多くて道路利用上の問題が多い。また、側溝も未整備箇所が多くて雨天時は水たまりが、あちこちにできて困っている。自治会長さん同士で良い対策を考えていただきたい。

「道路の維持管理」小山町自治会長 中西武雄  
道路整備もある程度は、地元利用者の手で行っていかねばならない。小山町では、毎年一回「道づくりの日」を定め、市の材料支給を受けて通学路などの整備を行っている。ただ、おい茂った木や枝をはらうために、いちいち地主に断わらなければならぬので、市の条例か何かで自由に処理できるようにしてもらいたい。

建設部長  
側溝については、地元で大事な所から順位をつけていただき施行していきたい。それまで待てないという所は材料支給で施行していただきたい。

側溝については、地元で大事な所から順位をつけていただき施行していただきたい。それまで待てないという所は材料支給で施行していただきたい。

## 楽しむスポーツ

### 年齢を超越して

少しの余暇を利用して...趣味を通し、健康を保持するとともに、より多くの人々との和をひろめようと、最近、地区のみなさんのスポーツ熱がさかんになっています。

昨年新しくオープンした小山田テニスコート（市民センター隣の小学校敷地内）では、仲間、夫婦、親子達が楽しいひとときをテニスで楽し

### 市長

道路の維持管理面となると予算的に細部まで配慮できないので、できる限りみなさんに助けていただきたい。来年はぜひ「道路づくりの日」のようすを見たいので日程を知らせてほしい。

懇談会の前に堂ヶ山町から西山町に至る通学路を見たが、小山田ではまず、この道路の直進問題をやらなければならないと思う。それができなければ、せめてカーブを緩くするだけでも、地元のみなさんの協力では是非やりたいと思う。

その他、将来的には南北道路バイパスも考えていかねばならないだろう。

街路灯についても、ある程度は市で考えていかねばならないと思うが、他地区との関係もあり今後検討していきたい。

んでいます。またこうしたテニス熱に応じて、初心者を対象とした硬式テニス教室を開き、基本練習から試合運びに至るまでを一流の講師のもとで直接指導を受けるなど、その技量の向上をめざしています。



び斗茶と呼ばれた一種の遊戯で、自慢の銘茶を取り寄せ、その品位を考え、飲み分けるのを趣旨とした競技で、古くは鎌倉時代より武家によって飲み分けの茶会がしばしば盛大に行われたものです。

市民センターの会場では、茶の香が部屋一杯にたどった中で、競技参加者三十余名が「五種五煎法」に従い、出されたお茶の色、味等を吟味しながら、「花」「鳥」「風」「月」「客」の木札をそれぞれ投札して結果の発表を待つが、日頃茶業関係の仕事にたずさわっているものの、香味で感じるだけになかなかむつかしく参加者も悪戦苦斗。こうした催しは、お茶の販売と製茶の鑑定技能を向上させるためにも、今後も機会あるたびに開催したいものです。

当日の成績は次の通りです。

- ◎四日市市長賞
- 古市 善己 堂ヶ山町(21点)
- ◎四日市市議会議長賞
- 古市美知代 堂ヶ山町(20点)
- ◎四日市農業改良普及所長賞
- 古川 道代 堂ヶ山町(19点)
- ◎四日市農協小山田支所長賞
- 奥村 直次 堂ヶ山町(19点)
- ◎水沢農業協同組合長賞
- 米川 重信 堂ヶ山町(19点)
- ◎四日市茶業連合会長賞
- 古市美代子 堂ヶ山町(19点)

## 茶の香りに酔って 悪戦苦斗!

### 市長賞に古市善己さん

市内でも水沢に次ぐお茶の産地として知られる小山田地区で、新春気分の抜けきらぬ去る一月八日、堂ヶ山町茶業組合関係者によつて、地区市民センターで斗茶会を催した。この斗茶会とは、茗戦及



# あなたは知っていますか？

## 市内23地区での死亡率が

一番高いことを……

小山田地区健康づくり推進協議会では、昨年夏三重県公衆衛生学院の学生たちにより、小山田地区住民の健康実態調査を行いましたところ、別表のような調査結果が出ました。

特に肺炎、心臓病、脳卒中など成人病疾患による死亡率が高く、市内二十三地区の中でも小山田地区がいつも高位に目立ち、注目される結果が出ました。

その原因が何であるかの結論はなかなかむずかしく、今後の健康づくりについて、一層関心を深めていきたいものです。

また、これらの調査結果に基づき資料「小山田の健康を考慮しよう」を回覧し、地区住民の感想を聞きました。この「小山田の健康を考慮しよう」を読んでのアンケート結果をお伝えします。

アンケートで、予想以上の反響がありました。最少年齢は十一歳の方から最高年齢は八十六歳の方まで、老若男女を問わず八十六名ものご意見が寄せられました。皆様も、このご意見を

参考とされ、それぞれの立場で、また、自らの健康問題として、じゅうぶんにお考えいただき、小山田地区全体で取り組んで行くことではありませんか。

回覧を見ての第一声はさまざままで「驚いた」二十人、「本当だろうか」十人、「これを機会に自分の健康を考えてみた」十三人、という状況でした。「小山田地区だけ、なんでこんなに悪いんやろう」という、次のようなご意見がありました。「男も女も働きすぎ、たいていが兼業農家で、会社から帰ると朝夕

は田畑に出て、夜は家事に追いまくられ、どの家庭も競争のように働き、体に無理をし続けているのではないか」「五十歳以上の人で、魚や肉が嫌いで、野菜や米ばかりを多くとっている人が、周りにけっこういる」「当地区の人は、積極性がなく、いろんな催し物、講演会、検診があっても参加しようと思わず、自分達身内さえよければよいみたいな考えがある」「仕事優先の考え方も大切だと思うが、寿命を短くしてまでももの仕事本位の生活ではどこに幸福を求めているのだろうか」

次に今後自分はどうしたいだろうか、というご意見がありました。「健康保持、家族団らんの日送りと早寝早起き、三度の食事はかかさず、体力に合った労働が必要であり、健康診断も必要だと思う」「山田、内山、和無田等字別に分けて、気楽な健康作りの相談会といったものを取り組んでいったらどうか」「気持ちの余裕を持って年

## 地区の最高齢者



平尾源右工門さん

小山田地区で、現在一番長生きされている方々は次の方です。あやかりたいですね。

- 男性では 内山町 平尾源右工門さん(九十五歳) 明治二十年九月十五日生
- 女性では 堂ヶ山町 古市 ステさん(九十三歳) 明治二十二年七月十八日生
- 特別養護老人ホームには 伊藤 せきさん(九十七歳) 明治十八年八月十三日生がみえます。



調査結果を聞く健康づくり懇談会

齢に合ったスポーツをして、仲間をふやし、親睦を深め他人の良い事を学び、生活改善をするとういと思う」「皆で健康について考えるべきだと思う」「主治医がなく、自分の身体を安心してあずける所がほしいと思う」等です。

このような意見が出たのを機会として、もつともつと健康ということに目を向けていただきたい。そして、もう一度、休養に対する考え方、食生活に対する考え方等をもつめて近所同志で話し合ってください。

そして、自治会、婦人会、老人会などでとりあげて、健康づくり推進協議会とともに取り組んでいきたいと思います。健康はどんな宝石よりも輝かしい宝です。

これから春にかけて最も空気が乾燥し、ちよつとした不注意により火災が発生しやすい時期になってまいりました。昨年の四日市市全域の火災は一三一件発生しており、このうち南消防署管内では、四十五件の火災が発生しております。

特に今からは、田畑の畦焼きをされる場合が多くなりますが、風の強さ、周囲の状況等を考えていただき、あわせて消火の準備も万全にし、火災防止に細心の注意をはらっていただくようお願いいたします。

## こわい枯草焼き

### 防火には細心の注意を

小山田地区では八件発生しており、南消防署管内では四郷、日永地区について第三位の悪い結果となっております。

火災の種類では林野火災が四件、建物火災が二件、車両火災一件、その他火災一件と、林野火災が半数を占めております。

また、今年になってすでに林野火災と建物火災が発生しています。これらはたき火の不始末、たばこの投げ捨てなどちよつとした不注意、マナーの欠如に起因して発生しております。

南消防署では、山火事防止用看板の取り付けなど、火災予防に努力しているところですが、皆さん方におかれましても火災予防にご協力をお願いいたします。



火を消すまで離すな目と心

# 会場せましと地区文化祭 第2回

文化の香りにふれていたため、地区文化祭を、昨年十一月七日(日)盛大に開きました。

この文化祭は、一般の作品展示会場を地区市民センターで、児童作品展とPTAバザーを小学校体育館にしました。特に一般作品の書道、手芸品、生花、写真、菊、洋蘭といった日頃丹精こめて作りあげたいずれも力作ばかり百数十点が、会場せましと展示され、観覧者のため息ばかりでした。

また会場内には、公衆衛生学院生による「健康相談コーナー」も開かれ、健康と食事について耳を傾ける人が多くいました。



にぎわった文化祭(地区市民センターで)

## 俳句

小山田軽費老人ホーム

せ、らぎの鳥の影さす初湯かな  
はな

若水やちびた筆先そめにけり  
あき

笹鳴きに鎌をやすめて待ちにけり  
西脇

味噌雑煮かおりの嬉し実家にいて  
みつへ

初日の出拝む玻璃戸に頬つけて  
千代

初日の出島も筏も黒く浮き  
千江

村人は初日を祝う火を焚きて  
いつ

春浅き老いの灯ひとつ忽然と  
かつ

ガラス拭き障子洗いに一日暮る  
はっとり

寒月をあげて青山の里更ける  
春子

ゲートボール元句飛び交う小正月  
麦笑

## 川柳

山田町 矢田まさ子

一番の病院行きのバスで起き

孫も行く先祖も学んだ小山田小

二階から見る山田町も乙なもの

寺の鐘聞きつつ夕げの買物に

急ぎ足会釈で通る墓参道

学校のスピーカー流れる墓参道

レッカー車でポンコツ愛車坂を  
行く

## 地区市民センターのグループ活動ご案内

グループ名	活動日
着付教室	毎週月曜日 午後
生花・茶道	毎週月曜日 夜
卓球会	毎月第1・3月曜日 夜
婦人会	毎月第1・3水曜日 午後
詩吟	毎週木曜日 夜
民謡	毎週木曜日 夜
青年女子	毎週木曜日 夜
書道	毎月第2・4金曜日 夜

## 念願かなう寡婦家庭

母子寡婦福祉法が制定される

私たち母子福祉会が一丸となって運動を続けてきた寡婦家庭の待遇等について、母子福祉や老人福祉の谷間にある「念願かなう寡婦家庭」にも、長年「母子寡婦福祉法」が制定されるようになり、昨年六月に寡婦福祉法が制定され、昨年四月一日より「母子寡婦福祉法」として制定されるようになりました。

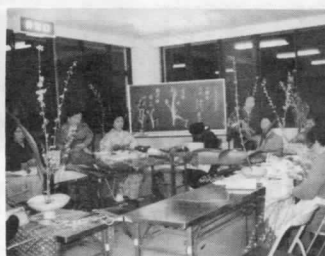
長い間、谷間にあった寡婦家庭にもようやく心の灯がともりました。これ等にともない、従前の「母子福祉会」が「母子寡婦福祉法」に名称も変更しました。

会員のみなさん、よろしくご了承ください。

(母子福祉会)



茶道クラブ



生花クラブ

小山田地区の人口 5,475人 (58年1月現在)

町別	世帯数	人口		計(人)
		男(人)	女(人)	
山田町	678(232)	858	1,028	1,886(240)
西山町	139	269	297	566
小山町	143	308	312	620
内山町	54	116	121	237
六名町	44	98	103	201
堂ヶ山町	103	237	242	479
美里町	30	75	58	133
鹿間町	230	457	461	918
和無町	99	212	223	435
計	1,520(232)	2,630	2,845	5,475(240)

( )は内数で小山田老人福祉施設

## 編集後記

◎季節に敏感な庭の草木に、早や春の息吹きを感じられる頃になってきました。

◎この地区広報が皆さんのお手元に届く頃には、花の便りを目と耳で楽しんでおられることでしょう。

◎この第三号は「心のふれあう地域社会づくり」について、多くの方々からご寄稿をいただきありがとうございました。

わたくしたちが住むこの「小山田」を愛し、思う気持がやがて人と人、心と心のつながりによって更にその輪を広げていきたいものです。

◎紙面の都合で一部を割愛させていただきますこと、あしからずご了承ください。